
遙かなる旅路～小説ドラゴンクエスト?～

莉紗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遙かなる旅路～小説ドラゴンクエスト～

【Zコード】

Z7920Z

【作者名】

莉紗

【あらすじ】

現在ではないとき、此処ではない場所で。

二羽の鷹が切羽詰まつた様子でたつた今日にしたことを風に、風が木々に、そして木々が動物達に伝えた。

大きくてそれはそれは立派なお城が、たつた一日にして滅んでしまつた。

その日から主人公リュナと、仲間たちの冒険が始まる。

遙かなる旅路へと。

今ブログから引っ越し中です。もうすぐ終わるか…重複投稿（？）
しています。ご了承ください。

キャラクター設定。

リュナ

この物語の主人公。頭に巻いた赤いバンダナがチャームポイントの青年。

優しい顔立ちとそれを裏切らない性格の持ち主だが、武術や呪文にも秀でている。

トロデ、そして馬と共に旅をしていた謎多き人物。

ヤンガス

元山賊の男。リュナに助けられたことから彼を兄貴、と慕い旅を共にする。

力任せの肉弾戦派で、身体中に残る傷痕は今までの戦いを物語っている。

語尾に「でげす、」でがんす、と付けるのが癖。

ゼシカ

アルバート家の激しい気性を持つお嬢様らしからぬお嬢様。
その呪文の才能には舌を巻くほど。

兄をドルマゲスに殺され、リュナ達と旅を共にすることに。

ククール

全国各地に置かれる聖堂騎士団の中核、マイエラ修道院下に属す色男。

女とイカサマと剣なら右に出るものはなし。

父のように慕つた修道院長をドルマゲスに殺され、主人公と旅を共

に。

トロデ

自分を王と名乗る謎の生物。見た目は緑色の醜い化け物。
彼が馬とリュナを引き連れ旅する目的とは？

馬

優しい眼をした美しい馬。

トロデからは目に入れても痛くないほどと可愛がられている。

キャラクター設定（後書き）

このような感じです。

カップリング要素はあまり入れられないかもしだいけれど…

原作通り リュナとミーティア

オリジナル ククールとゼシカ、ヤンガスとゲルダ

という風に進めていく予定。

序章

現在ではないとき、此処ではない場所で。

二羽の鷹が切羽詰まつた様子でたつた今日にしたことを風に、風が木々に、

大きくてそれは立派なお城が、たつた一日にして滅んでしまつたと。

されていて、
その杖がなくなっていたのだと。

神鳥の杖は人間離れした力を發揮させる。

禪と禦められる鳥から生えられたのだから
人間が畏れ難い。故に人間一本揃ひなか

だから今まで、この世は平和だったのかもしれない。

邪な人間に杖が渡つたとすれば

動物たちは互いに身を寄せ合い、これから行く末を案じた。

小さな野ネズミが草むらを走り抜ける。虫を追いかけているようだ。
長い尻尾がわさわさと揺れる。

着た人物 · · · 人?

怪訝そうな顔をして振り返ったのは緑色の怪物じみた化け物だった。キイーっ、と歯をむき出すと、野ネズミは驚いて飛び上がる。

「ハハハツ、トロ^ト王に驚いてるよ可哀想に。そりトーポ、おいで。

赤色のバンダナを頭に巻いた青年が言つ。

黄、青の鮮やかな色合いの服。澄んでいて、なお意志の強そうな黒い瞳。

背中にしまわわれているのは、長めの片手剣だ。

トーポと呼ばれた野ネズミは一寸散に主人の元へ駆け寄った。

差し出された手を駆け登り、彼の左ポケットに潜り込んだ。

「そりゃあ、トロデのおっさんを見て驚かない人間はそうそういうないでがんすよ。」

その様子を遠田から見て笑いながら言う一人の男。

棘の生えた実を半分に割ったような帽子を頭に被り、背には斧を背負っている。

フサフサとした毛皮のベストや擦り切れたブーツからは、旅慣れた者の香りがする。

身体中に走る傷痕……右頬の十字傷等……、田つきの悪さ、まるで山賊だ。

「そんなことをいうでないヤンガスつ。ワシとて望んでこんな姿になつてている訳ではないのだ。ワシが人間の頃はもつとハンサムでな……何かおかしいか、リュナ。」

「いや、な、何もないですよ……ブツ。」

「そうか。リュナの兄貴はおっさんが人間の時の顔を知つていてるでがんすね。

どうだつたでげすか?」

「いや、大して変わつてないよ。」

やつぱりね、と笑うヤンガス。トロデは笑う一人をポカリと殴つた。

序章？（後書き）

さて、始まりました「～遙かなる旅路～」
はじめまして、またはお久しぶりです！
ドラクエは？が一番好きなので。
これからも書いて行きます！よろしくお願ひします。

序章？

「そう言えば、姫は？姫や、姫やビージャ。」

「姫つて…あの馬姫様のことですかい？そう言えば姿が見えないでげすな。」

長旅において必ず必要な物の中に「馬車」がある。疲れた時は中で休むことは勿論、荷物や武器を運んだり、目的によつては

人をかくまうことも可能だ。

リュナたちのパーティーも当然、馬車を持っている。

小ちんまりとしているが、ビートなく気品が漂っているのは気のせいだろうか。

その馬車を曳く馬、その馬が消えてしまったのだ。

ちなみにトロデは、この馬をまさに「田に入れても痛くない」状態。溺愛しているのだった。

三人…は辺りを見回す。

ここは鬱蒼と繁った森の中。迷い込む隙は沢山有る。トロデが必死に呼ぶが、馬は一向に姿を見せないと、茂みがゴソっと動いた。

「姫や、そこにいるのか？」

トロデは茂みに近づいた。その時リュナ首筋にピリピリと緊張を感じた。

年の感覚で分かる、殺氣だ。

反射でトロデを突き飛ばした。

「ヤンガスつ。」

「おうよ。」

軽々と飛んできたトロデをヤンガスがキャッチし、リュナは地に倒れる。

同時に茂みからスライムが何匹か飛び出した。

サツと飛び起き背から剣を抜く。ギラリと鈍く光る刃、長年使い古している僕の愛剣。

ふるふると体を震わせ、トロデに飛び掛かろうとした一匹を一刀で切り捨て、

返す刀で向かつてきた一匹を薙ぐ。両足を踏ん張り、剣と共にぐるりと一周。

そんなリュナの背後に忍び寄つた何匹か。まずい、気付いて体を捻つてももう遅い。

まあかすり傷の一つか二つ増えるだけさ…

「どうつ。」

割り込んできたのはヤンガス。左脇にはヤンガスに抱えられたまま、頭を手で覆い体を縮こませ震えるトロデ。

そんなことはつゆしらず、右手で斧を振るう。

ぐわああんと大気が震え、衝撃波だけでスライムは潰れていった。

毎日手入れを欠かさない鉄製の斧はヤンガスが使うと化け物じみた威力を發揮する。

気付けばスライムは居なくなっていた。グサツと一人が同時に武器を地に差した。

「あー、大分腕が鈍つちまつたでがんす…おっさん? 大丈夫でげすか?」

ヤンガスが見下ろした先には憎らしげに睨みを効かせるトロデがいた。

「助けて貰つたことには礼を言つ。しかし…・・せめてワシを置いてから戦いに加われつ! 死ぬかと思つたぞつ。」

「いやあおっさん小ねえぞ。」

こりや喧嘩になるぞ…、勢いだけの口喧嘩にリュナは無意識に微笑んだ。

口喧嘩をしていたトローデが叫ぶ。

木々の間から姿を表したのは一頭の白い馬。
鬚は丁寧に結われ、赤い馬銜はみを付けている。

何より印象的なのはその瞳だ。全てを優しく包み込むような人間離れ……

否、馬離れした翠色の。

「無事じゃったか姫！心配したぞ。」

馬は謝るよつに低く嘶いた。

「良かつた良かつた。さあ今日中にトラペッタに着いちゃいましょうぜ、兄貴。」

「ああ、そうだね。」

そつと空を見上げるリュナ。ヤンガスはその顔に深い影が差しているように見えてならなかつた。

「トラペッタにはマスター・ライラスなる男がいる。ドルマグスはその弟子じや。

何かしら知つておるかもしけぬ。」

「ドルマグス……」

「ワシらをこんな姿に変えた張本人じゃ……リュナ、あまり自分を責めるでない。」

「兄貴？ 一体兄貴は何者で……？」

トローデはただ静かに首を振つた。今はまだ早い、と。

リュナはギリッと奥歯を噛み締めた。今でも覚えている。たつた一度だが、奴と真正面から対峙したあの日。

全力を叩きつけるようにして放つた必殺剣、「ギガスラッシュ」。

剣に雷の魔力を宿し、相手を一網打尽にする技だ。

大抵の魔物はリュナのこの技によつて倒されていった。

しかし…奴、ドルマゲスは違つた。

フツ、と鼻で笑い易々と避ける。そして田の前から消えた。

甲高い笑い声を残して。

あれからは毎日欠かさず練習をしてきた。最近一段と濃くなつた邪悪な気配。

呼び寄せられるように、辺りには魔物が多くなつた。その分剣も握る。今度こそ…僕は。
沈みかけた夕陽を、リュナは剣の柄に手をかけながらじっと見つめた。

序章？（後書き）

序章、完結しました。
これからどうなるのでしょうか… いろんな意味で不安。
何やかんや言って♂主が一番好きな私。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7920z/>

遙かなる旅路～小説ドラゴンクエスト？～

2011年12月25日20時57分発行